

公益財団法人日本バスケットボール協会

2025 年度 7-6 月期事業方針

事業方針策定にあたって

2030 年、JBA は創立 100 周年を迎える。2025 年度は、その時の JBA のあるべき姿を具体的に想像し、それに向けた計画を着実に実行、そして次の 100 年に繋げるための計画である「JBS2025 (Japan Basketball Standard 2025)」を立案する年となる。

JBA の定款にある、「バスケットボールの普及・振興」、「競技者の育成・強化」、「バスケットボールを通じて国民の心身の健全な発展に寄与し、豊かな人間性を^{かんよう}涵養すること」を実現するためにも、活力にあふれたサステナブルなバスケットボール界の体制構築による健全で発展的なバスケットボール環境の整備、一気通貫の育成・強化による国際競争力および日本のプレゼンスの向上、生涯にわたりバスケットボールに携わることのできる環境の整備などを推進して社会課題の解決に取り組み、当協会の理念である「バスケで日本を元気に（バスケットボールで日本を元気にします）」の実現を目指す。

事業方針（骨子）

1. Japan Basketball Standard (JBS) と中期計画に掲げるバスケットボール界の将来像を基とし、2030 年の「JBA 創立 100 周年」以降を見据えた活力あふれサステナブルな体制を構築し、健全で発展的な競技環境を整える

＜重点実施事項＞

- ・JBS2021 の中間レビュー～JBS2025 の周知、JBA 中期計画の作成と実現に向けた体制の構築
- ・組織の成長に繋げ、持続可能な JBA・PBA（都道府県協会）・関連団体の在り方を先取りした体制構築と運用
- ・ガバナンスの順守と強化
- ・DX、ITC、AI 等の最新技術の活用

2. バスケットボールの価値最大化のため、一気通貫での代表強化・育成方針の下で「現場連携」と「国際競争力」を増進させ、日本バスケのプレゼンスの向上を目指す

＜重点実施事項＞

- ・LA（ロサンゼルス）オリンピック 2028 や 2027 ワールドカップ、2026 女子ワールドカップに向けた強化と育成
- ・2030 女子ワールドカップ、2028 女子 OQT（オリンピック世界最終予選）、3x3 国際大会の招致
- ・マーケティングに連動した大会設計と商品開発
- ・Bリーグ、WJBL、大学、高校、車いすバスケ等の現場連携
- ・代表活動、育成に留まらず、広く JBA の活動や理念、計画、成果を発信

3. 生涯にわたりバスケットボールに関われる環境を整えることでバスケファミリーの拡大に繋げ、バスケの力で社会課題の解決に取り組み、「バスケで日本を元気に」する

＜重点実施事項＞

- ・「生涯バスケ部 PJT」と「ジュニアバスケ DX アクション」の推進
- ・DX を活用した登録制度、PBA 連携、PBA 支援の推進
- ・デジタル技術や SNS を活用したプロモーション展開～バスケ活動の効率的な周知
- ・SDGs、社会課題の解決につながるバスケファミリー連携の強化（車いすバスケ含む）

1. 関連組織との連携

(1) PBA、Bリーグ、B3リーグ、WJBL、各種連盟、協力団体等との連携強化

- ① PBA 連絡会、全国専務理事連絡会等を通じた組織基盤の強化、D-fund による運営支援および活動推進
- ② 日本社会人バスケットボール連盟（JSBF）、全日本大学バスケットボール連盟（JUBF）の事業推進へのサポートおよび組織基盤強化に向けた規程整備の指導等
- ③ 日本障がい者バスケットボール連盟（JIBF）加盟団体の活動推進および JIBF 事務業務のサポート
- ④ 協力団体（全国高体連専門部、全国高体連定通制部専門部、全国高専連合会専門部、日本中体連、全国専門学校連盟ほか）との定例会議の実施および活動連携協力
- ⑤ 全国/ブロック/都道府県のアンダーカテゴリー（U12/U15/U18）における活動の推進および会議体の実施
- ⑥ ブロック協会およびブロック事業における補助および連携強化

(2) 登録推進および普及活動

- ① 競技者人口拡大に向けた各カテゴリーの競技環境の整備
- ② 普及施策の検討・推進・実施
- ③ 登録システムの管理・運用および改善
- ④ PBA 向け CMS サイトの開発、導入による PBA サイトの UI・UX 改善サポート

(3) 一般スポーツ団体ガバナンスコード対応への指導およびサポート

- ① PBA、WJBL、B3、JSBF、JUBF におけるガバナンスコード対応への指導およびサポート

2. 日本代表関連

(1) 全カテゴリー共通

- ① 男女 5 人制・男女 3 人制における、Japan's Way のアップデートを含めた強化方針のより深い浸透を目的とした、アンダーカテゴリー代表と A 代表のコーチ・スタッフの連携促進
- ② 可能性を持った若い選手をトップカテゴリーへ引き上げていく一気通貫による中長期的な選手育成・強化体制の推進
- ③ より強固な海外ネットワークの構築による日本国籍を有する有望長身選手等の発掘推進

(2) A 代表

- ① 2027 ワールドカップ、LA オリンピックに向けての強化体制推進
- ② 一気通貫としてのトップ～アンダー代表が連携・運動する体制を構築し、中長期的な視点で選手育成プログラムを遂行
- ③ トップリーグ含め年間試合数と代表活動の調整並びに国際強化試合の確保
- ④ 日本国籍を有する海外在住の選手発掘と、帰化許可申請に関する整備の働きかけの継続

(3) アンダーカテゴリー代表

- ① アンダーカテゴリーの指導者育成への注力、国際大会出場による選手の経験値向上
- ② 大型選手の強化、ユーティリティプレイヤーの養成、海外の日本人パスポート保持者のタレント発掘活動
- ③ A 代表との一気通貫を促進と将来的な継続的な A 代表強化に向けて、U22 代表（B 代表）体制の構築

(4) 3x3 代表

- ① LA オリンピックに向けた 3x3 代表強化活動のスタートとしての海外コーチの招聘を含む強化体制の検討と構築
- ② 「競技力の向上」と「ポイント獲得」のための世界転戦活動の方法論の検討、可能な限りの活動推進
- ③ U23・U21 カテゴリーを主とした将来の 3x3 専任選手の発掘・育成

3. 国際関連

(1) FIBA/FIBA Asia との緊密な連携維持

- ① FIBA 本部および FIBA アジアオフィスとの強固な関係継続
- ② 国際移籍登録業務の円滑化
- ③ 男女アジアクラブ選手権に向けた連携強化
- ④ 訪問、会議（オンライン含む）等による情報収集・意見交換等

(2) 日本代表チーム支援

- ① ワールドカップ（男子 2027、女子 2026）に向けた世界強豪国との強化試合の調整等
- ② FIBA 公式大会出場の際のチーム登録業務のサポート
- ③ 男女代表チームの側面的支援（ヘッドコーチ等のサポート含む）

(3) 他国 NF との連携強化

- ① 既存のパートナーシップ提携国（ドイツ・オーストラリア）との関係強化
- ② 新たなパートナーシップ提携国の模索、他国との交流推進

(4) 国際交流・協力事業に向けた関連団体との連携強化

- ① スポーツ庁、外務省、JOC、JICA 等との事業展開の検討
- ② 在外日本国大使館、駐日外国公館等との交流

(5) e スポーツに関する調査

- ① FIBA 公式大会（eFIBA）出場に向けた情報収集

4. 育成関連

(1) 中長期視点および一気通貫に基づく競技力向上に資する施策検討

- ① 各カテゴリーにおける競技力向上に資する施策検討
- ② パリオリンピック後のテクニカルレポートの活用
- ③ Japan's Way の更新および周知

(2) 年代別育成方針の構築とシステムの確立

- ① マネージャー会議・コーチ研修を通じた都道府県育成センター（DC）の活動支援・価値向上への取り組み促進
- ② ブロック DC・講習会等を通じた選手発掘指標の周知や保護者講習等のプログラム提供
- ③ マンツーマンディレクター会議や映像資料を通じたマンツーマン推進の取り組みの継続
- ④ 育成情報の体系的整理、効果的な情報発信と共有機会の提供

(3) エリート選手を指導するコーチ教育の確立

- ① 各カテゴリーのエリート選手の競技力向上を目的とした、エリート選手を指導する指導者の指導技術向上策の検討・実施
- ② テクニカルレポート・Japan's Way の周知・理解促進

5. 指導者関連

(1) 各種講習会、研修会の開催

- ① 各種講習会、研修会の開催に向けた計画・調整、実施・運営、改善提案
- ② 各講習会のカリキュラムの見直し、改善検討

(2) コーチライセンス制度の質の向上と今後に向けた取り組み

- ① 現行のコーチライセンス制度の検証
- ② よりよい環境構築のための制度・施策の検討

(3) コーチ登録者数拡大に向けた施策

- ① 対象者別（女性コーチ、若手）の各施策の検討と推進

- ② コーチライセンスの普及・認知向上

(4) 都道府県協会との連携および支援

- ① 各 PBA 指導者養成委員会との連携・情報共有
- ② 各 PBA での指導者養成事業の推進・支援

6. 審判関連

(1) 審判・審判インストラクターライセンスの国内統一プログラム・カリキュラムの継続構築

- ① ライセンスに応じた講習会プログラムの継続構築
- ② 審判員の判定力向上に繋がるインストラクターのレベルアップ。インストラクターの指導を通じた競技規則の理解・審判技術の向上
- ③ 全国統一の評価基準によるライセンス認定、評価の実施
- ④ A 級・B 級審判員の活躍推進
- ⑤ 各リーグの将来構想を見越したトップリーグ担当審判員のレベルアップに向けた研修の実施

(2) 審判登録者拡大および多様性受容のための施策

- ① 女性審判員のライフプランに対応した環境整備
- ② U18・U22 審判員の環境整備
- ③ 競技者・指導者の審判ライセンス取得推進を通じた競技の理解促進
- ④ 審判間の相互尊重、審判の役割への尊重推進
- ⑤ 審判活動の魅力、競技規則の普及と理解促進のための発信（JBA によるウェビナー実施、映像資料の充実）

(3) 海外協会とのパートナーシップ提携も踏まえた人材交流の実施

7. 競技運営関連

(1) 日本代表戦/各種大会の価値向上および安定的な大会運営

- ① JBA 主管大会における効率的な大会運営の追求
- ② FIBA 主催試合における FIBA との綿密な連携および円滑な大会運営
- ③ 全日本バスケットボール選手権大会（天皇杯・皇后杯）の大会改編の実行
- ④ Jr.ウインターカップの安定的な運営
- ⑤ 全国ミニにおける特別ルールを導入およびその対応
- ⑥ JBA 主管大会の戦略的・安定的なベニュー確保

(2) 各種大会の管理・サポート業務

- ① 競技会委員会の機能充実と各種競技会の管理体制の整備
- ② PBA 競技委員会の活動（要項整備、国内競技会申請の徹底等）に対する支援体制の充実
- ③ JBA 以外の団体が主管する全国大会（国スポ、インターハイ、全中等）の運営支援・連携の強化
- ④ 競技会委員会における競技会カレンダー調整機能の整備
- ⑤ 競技環境の充実に向けた各種規程の整備
- ⑥ バスケットボール用器具規格やユニフォーム規則の整備・見直しを通じた競技環境の充実

(3) TO/スタッフ/コミッショナーの強化・育成・指導体制の確立（3x3 を含む）

- ① JBA および都道府県の TO 委員会組織体制の強化
- ② 都道府県における TO の普及育成に向けた取り組みの強化
- ③ TO マニュアルと TO 基礎講習（e ラーニング）の受講推進への取り組みの強化
- ④ 国内 TO ライセンス制度の整備・運用と FIBA ライセンスの管理
- ⑤ TO インストラクターの養成を通じた都道府県 TO 講習会の活性化
- ⑥ 全国 TO インストラクター講習会およびブロック別 TO インストラクター研修会の実施

- ⑦ 国内におけるスタッツの定義および方針の策定
- ⑧ 国内主管大会におけるコミッショナー権限の明確化と設置基準の設定
- ⑨ FIBA TO/スタッツライセンス取得へ向けた仕組みづくり
- ⑩ TO の人材確保と実務能力の維持・向上に向けた取り組みの強化
- ⑪ 各種連盟等におけるスタッツ研修会の実施に向けた要件の整理と支援体制の整備

(4) 3x3 競技の普及、競技環境の整備および日本代表強化へ繋がる競技大会の実施

- ① 日本選手権の大会価値向上、PBA における予選大会の開催支援
- ② 特に若年層（U12、U15、U18）および U23 世代の競技普及に向けた各種活動の強化
- ③ 競技者数の増加に向けた 3x3 登録制度の方針策定と推進
- ④ 国内大会の競技環境整備に向けたオーガナイザー登録制度の方針策定と推進

(5) U18 年代の競技環境を競技・事業の両輪で戦略的に発展

- ① U18 カテゴリーにおける全国/ブロック/都道府県においての競技会および普及やプロモーションなどの方針策定
- ② U18 日清食品リーグの方針策定と運営やプロモーション
- ③ ウインターカップの方針策定と運営やプロモーション

8. コンプライアンス関連

(1) 暴力行為等通報窓口の適正な運営

(2) 暴力・暴言・ハラスメント行為等の未然防止と適正な懲罰

- ① 予防：関連セクションと連携した暴力・暴言・ハラスメント行為等の抑止に繋がる各種施策の実施
- ② 懲罰：PBA 等を含めた裁定/規律委員会での懲罰手続きの適正化・迅速化、懲罰内容の平準化
- ③ 研修等の実施：

PBA 等が主体となり実施する指導者・保護者向けの研修等を通じてのコンプライアンス意識の啓発・醸成

(3) より効力のある関連規程類の整備

- ① 裁定/規律/法務委員会での共通認識を図った上での懲罰関連規程の改定

9. 事業

(1) 「JBS2025」の浸透と JBA 中期計画の策定主導、JBA 創立 100 周年ビジョンの検討

(2) 日本代表および JBA 主管大会プロパティを活用したブランディング

(3) 日本代表戦や JBA 主管大会における戦略的チケットングの実践

(4) ファンクラブ、マーチャンダイジング等、ファンマーケティングの実践と強化

(5) 協賛・放送パートナー等の満足度向上と新規協賛パートナーの獲得

(6) バスケットボールファミリー拡大に向けた新規事業の企画と実行

10. 広報・プロモーション関連

(1) バスケットボール界全体の露出強化

- ① 各カテゴリー日本代表の認知度・価値向上に寄与する露出拡大
- ② 天皇杯皇后杯、ウインターカップ、U18 日清食品リーグを始めとする JBA 主催・主管大会の価値向上、出場選手等のみならず、各種ステークホルダーに対する満足度向上への寄与
- ③ LA オリンピックに向けた中期計画に基づく 3x3 の競技普及および価値向上に向けた広報体制の強化
- ④ B リーグ/WJBL/PBA 他、各種団体等と連携した ALL バスケットボール体制での広報連携の実現

(2) バスケットボールの普及振興および競技者・指導者等の登録推進に寄与する広報活動

- ① 全国の「する」「みる」「ささえる」「携わる」方々に対する速やかかつ適切な情報の公開・伝達、および満足度向上への寄与

② 映像、静止画・テキスト・過去大会の記録等の当協会所有の素材財産を効果的に利用した、各種情報のコンテンツ化の促進

③ 「JBS2025」の周知および JBA 創立 100 周年記念事業（2030 年）に向けた広報コンテンツ等の企画検討

（3）公式映像を通した、バスケットボールの普及とコンテンツ価値の向上

以上